

19	19	18	18	18	18	18	18		17	17	17	17	17
5	2	10	10	5	3	2	2		12	8	5	5	5
10					15	25	上旬		25	23	31	27	5
<p>第三中隊宇品着「ラバウル」方面作戦参加準備に従事す。</p> <p>第三中隊宇品出発。</p> <p>第三中隊比島「ダバオ」着。</p> <p>第三中隊「ラバウル」着「ガ」島攻略作戦参加。</p> <p>軍令陸甲第三四号により第一、第四中隊の主力を船舶固定通信連隊に転属せしむ</p> <p>第三中隊「ガ」島撤退作戦参加。</p> <p>第三中隊内地帰還のため「ラバウル」出発。</p> <p>第三中隊宇品上陸。</p> <p>補充のため連隊長内地帰還第一、第四中隊を再編す。</p> <p>教育基幹要員留守要員を残留、主力宇品出発。</p> <p>本部及び第二、三、四中隊「ラバウル」方面前進。</p> <p>連隊長改編のため宇品帰還。</p> <p>軍令陸甲第一〇〇号に依り編成改正完結。(六ヶ中隊)</p>													

0687

19	19		19	19	19
11	8		6	6	5
			25	10	15
<p>「ラバウル」方面に在りたる第二、第三、四中隊は船舶通信第三大隊に転属、千島及北海道に在りたる第一中隊の一部を船舶通信第一大隊に転属せしむ。主力宇品港出発。(連隊長)</p> <p>この日より逐次宇品港出発。</p> <p>本部第三、四、六、中隊材料廠は「マニラ」に移駐開始。逐次左の配置に移り一月完了す。</p> <p style="text-align: center;">配置状況</p> <p>本部材料廠及び鳩隊は「マニラ」第一中隊主力は西部「ニューギニヤ」一部「マニラ」「レイテ」第二中隊主力は比島群島各島一部「ハルマヘラ」「ボルネオ」、第三中隊主力は「マニラ」一部「レイテ」第四中隊主力は「マニラ」一部「レイテ」及び「ボルネオ」第五中隊は「マライ」「スマトラ」及び「ニコバル」第六中隊は「ボルネオ」及び「ジャワ」に配置す。</p> <p>「ニューギニヤ」に派遣中の第三中隊の一部は現地電信第三連隊に編入せらる。第六中隊仏印移駐の為出発。</p>					

0688

	20	20	20	19	19
	8	3	3	12	12
	15	25	15	28	6
<p>第六中隊 仏印西貢着。</p> <p>連隊主力西貢に移駐。</p> <p>第二、三中隊及第四中隊の一部は比島派遣軍通信隊に編入せらる。</p> <p>在比島連隊主力現地軍転属に伴い第五、六中隊を基幹とし対船舶通信隊の主力及び海底線敷設隊、第一〇揚陸隊通信班を以て再編成完結。吉岡少佐着任仏印、「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「ハルマヘラ」及び「ニューギニヤ」方面の船舶輸送の通信業務に従事、本部、材料廠、第四中隊の主力、及び第六中隊は西貢に位置し爾後本来の任務の外築城及特攻訓練に従事終戦に至る。</p> <p>各中隊配置状況</p> <p>第一中隊「ニューギニヤ」及「ハルマヘラ」諸島</p> <p>第二中隊 欠</p> <p>第三中隊「昭南」</p> <p>第四中隊「マライ」「ボルネオ」及印度支那</p>					

	20
	9
	2
<p>部隊長</p> <p>中佐 日山千里</p> <p>中佐 藤木武史</p> <p>少佐 吉岡享平</p>	<p>第五中隊「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「アンダマン」諸島</p> <p>第六中隊印度支那地区</p> <p>連隊本部は西貢第一、三、四（一部）五中隊は夫々派遣の地点に於て終戦。</p>

0690

昭		年 月 日	略 歴	船 舶 通 信 連 隊 第 一 中 隊 (暁第二九五部隊)	略 歴
19	19				
7	6				
19	19	12	5	5	5
19	19	5	4	3	2
19	19	12	19	19	5
<p>軍令陸甲第四二号に依り広島に於て編成完結。 宇品港出発。</p> <p>西部「ニューギニヤ」島「マノクワリ」上陸。</p> <p>「ピアク」島及び「ヌンホル」島に無線分隊を派遣す。</p> <p>「マノクワリ」を中心とする局地輸送業務に伴う通信連絡に任ず。</p> <p>第一三船舶団長の指揮下に入り主力を以て「ソロン」「マノクワリ」間竹一船団輸送作戦に協力し一部を以て「ソロン」「マル」「コール」「サイベーム」に無線分隊を派遣して舟艇基地間の通信連絡に任ず。</p> <p>更に無線一ケ分隊を「ヌンホル」島に増強し「ピアク」島突入作戦に協力す。</p> <p>第一三船舶団司令部の「ペラウ」地区転進に伴い中隊本部及無線小隊は「マノクワリ」出発。「ペラウ」に転進す。</p>					
					摘要

0691

	18	20	20
	12	7	4
	13	20	29
<p>「バボ」に転進し同地の第四七碇泊場司令部の指揮下に入る。</p> <p>西部「ニューギニヤ」「マノクワリ」「バボ」「ソロン」及「ハルマヘラ」島に分散し主として現地自活に任じつつ夫々の地点に於て現地復帰し現地作戦軍各部隊に編入せらる。</p> <p>「ハルマヘラ」派遣視号小隊の行動</p> <p>「ハルマヘラ」島「ワシレ」上陸。同地春船舶隊長の指揮下に入り同地出入船団との視号通信連絡に任ず。</p> <p>中隊長 中尉 荒木虎男</p>			

0692

年	月	日	略	歴	摘要
昭	19	19			
	9	5			
	2	23			
			「マニラ」に於て編成完結。		
			船通五中作命に依り「ベラワン」に転進第三船舶輸送司令部馬來支部「ベラワ		
			ン」出張所長の指揮下に入る。		
			終戦。		
			小隊長		
			中尉 松本政行		

船舶通信連隊第五中隊第二少隊
(既第二九五五部隊)

0693

年 月 日	略 歴	摘 要
昭 17		
12		
25		
<p>軍令陸甲第三四号により船舶通信連隊の第一、第四、中隊及び中支、南支、方面配置人員をもつて編成完結。</p> <p>大陸命第七一九号により船舶司令官の隷下に入らしめられ、本部は広島に位置す。</p> <p>各隊配置状況</p> <p>第一通信隊 「アツツ」島、幌筵島、小樽、広島、横浜、那覇、宮古島、基隆、 花蓮港、</p> <p>第二通信隊 西貢、盤谷、昭南、「アンボン」「バレンバン」「ミリー」「パタ ビヤ」「クチン」</p> <p>第三通信隊 「ラバウル」「バボ」「モクメル」「セブ」「バラオ」「ヤツブ」 「ウエワク」「ホーランジャ」</p> <p>第四通信隊 上海、漢口、香港、広東、高雄、</p>	<p>船舶固定通信連隊 (暁第二九五部隊)</p> <p>略歴</p>	

0694

20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	昭
3	3	3	8	7	5	5	4	4	3		17
31	25	25	20	15	15	15	20	20	18		12
<p>第五通信隊 「アンボン」「バボ」「バルマベラ」「セブ」「ソロン」「マノク クワリ」「ドボ」「サルミ」「セルワツ」「ダバオ」「マルメラ」 「バラオ」「ヤツブ」「ウエワク」「ホーランジャ」</p> <p>「マリアナ」諸島「バガン」島に一部を派遣す。</p> <p>大陸命第九九一号により第三通信隊は第四船舶輸送隊長の隷下に入らしめらる。</p> <p>第一通信隊宮古島通信所は船舶通信第二大隊に編入せしめらる。</p> <p>陸軍密第一九一号により第一通信隊は船舶通信第一大隊に編入せしめられる。</p> <p>「バガン」島通信所は船舶通信第二大隊に編入せしめられる。</p> <p>軍令陸甲第六七号により第三通信隊は第一五固定通信隊に編入せしめられる。</p> <p>第五通信隊は南方軍第四通信隊に編入せしめられる。</p> <p>第二通信隊は船舶通信連隊に編入せしめられる。</p> <p>陸軍密第一三〇号により第四通信隊は船舶司令部に編入せしめられる。</p> <p>軍令陸甲第三六号により大本營第二通信隊に編入せしめられる。</p>											25

0695

昭	17	18	19	年	船 船 固 定 通 信 連 隊 第 一 通 信 隊 略 歴
月	12	1	5	日	
日	25		15		
<p>軍令陸甲第三四号により広島に於て編成完結大陸命第七一九号により船舶司令官の隷下に入らしめらる。</p> <p>「アツツ」島、幌筵島、小樽、広島、横浜、沖繩、南西諸島、基隆、花蓮港に逐次展開し船舶輸送に対する通信業務に従事す。</p> <p>陸軍密第一九一号により船舶通信第一大隊に編入せしめられる。</p> <p>部隊長 少佐 黒川勘一</p>					略
					摘要

0697

至自至自至自											昭	年 月 日	船船固定通信連隊第三通信隊 (暁第二九五九部隊)	略	略	略						
19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	17											
7	7	4	4	11	10	5	5	2	2	2	2						12					
15	14	20	20	11	31	15	14	22	22	19	14	6	25									
<p>軍令陸甲第六七号に依り第一五固定通信隊に転属。 「ラバウル」防衛並に船舶作戦参加。</p> <p>大陸命第九九一号により第四船舶輸送司令官の隷下に入る。</p> <p>第二次「ビスマルク」船舶作戦参加。</p> <p>第一次「ビスマルク」船舶作戦参加。</p> <p>西南太平洋船舶作戦参加。</p> <p>「ニューブリテン」島「ラバウル」着。同日上陸。</p> <p>同島発。</p> <p>南洋群島「トラック」島着。</p> <p>字品港出発。</p> <p>軍令陸甲第一〇〇号に依り広島に於いて編成完結。</p>											略	歴										
													摘要									

0699

昭	20	17	17	年 月 日	船舶固定通信連隊第四通信隊 略 歴	(暁第一九五九部隊)
	3	12	12			
	25		25			
<p>軍令陸甲第三四号により広島において編成完結。 大陸命第七一九号により船舶司令官の隷下に入らしめらる。 上海、漢口、香港、広東、高雄に在りて船舶輸送に対する通信業務に従事す。 陸重密第一三〇号により船舶司令部に編入せしめられる。</p> <p>部隊長 少佐 高木 憲</p>				略 歴		
				摘要		

0701

	昭
	20
	10
	26
<p> 所長 曹長 長谷部 栄 </p>	浦賀着、復員

0703

昭		年 月 日	略	略	略	略	略
20	19						
8	5						
15	下旬	15	12				
<p>停戦</p> <p>展開完了北方船舶輸送に対する通信業務に従事す。</p> <p>第三中隊 根室</p> <p>第二中隊 小樽</p> <p>第一中隊 幌筈、松輪島、色丹島、国後島、択捉島、得撫島、樺太</p> <p>材料廠 小樽</p> <p>各中隊配置状況</p> <p>大陸命第九九一号により船舶司令官の隷下に入らしめられ小樽に位置す。</p> <p>成完結。</p> <p>固定通信連隊基地要員、船舶通信連隊特設第六中隊を基幹として小樽において編成</p> <p>軍令陸甲第四二号により編成下令。</p>							

七中斷福 (頁の四)

0704

	至自 2020
	98
<p style="text-align: center;">部隊長 少佐 高木 憲</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">第一中隊は「ソ」連軍により各所在の地点に於て武装解除さる</p>

0705

昭	19	19	20	20	20
年	19	19	20	20	20
月	4	5	6	1	2
日	12	15	頃	11	
略	<p>軍令陸甲第四二号により編成下令。</p> <p>船舶固定通信基地要員を基幹として広島において編成完結。</p> <p>大陸命第九九一号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめられ逐次南西諸島方面に展開す。</p> <p>大隊本部下関に移駐す。</p> <p>本部は台湾に移駐す。</p> <p>大陸命第一二三号により一部は第七船舶輸送隊の編成に入らしめらる。</p> <p>二〇現在の各中隊配置状況。</p> <p>本部及び材料廠 台北</p> <p>第一中隊 東京、八丈島、大島、新島、父島、横浜、硫黄島、神戸、広島、大阪、台北、下関、</p>				
歴					
摘要					

船舶通信第二大隊
(暁第一六七一九部隊)
略歴

0706

							昭
	20	20	20	20	20	20	20
	6	5	4	4	4	3	2
		7	7	5	2	17	
<p>第二中隊 那覇、花蓮港、石垣島、高雄、基隆、久米島、宮古島、古仁屋、徳之島、台北、</p> <p>第三中隊 下関、台北、バガン島</p> <p>硫黄島通信所玉砕す。</p> <p>第一中隊は船舶通信第七大隊に編入せらる。</p> <p>第三中隊は「バガン」島出張所船舶通信第五大隊に編入せらる。</p> <p>台北、基隆、花蓮港、高雄に在りたる人員のうち準士官以下は第七船舶輸送司令部に編入せらる。将校は第七船舶輸送司令部服務を命ぜらる。</p> <p>下関に在りたる第三中隊主力は船舶通信第五大隊に編入せらる。</p> <p>二六日現在第二大隊配置状況</p> <p>広 島 利根川中尉 以下 六名</p> <p>沖繩本島 磯 部少尉 以下一〇三名</p> <p>古仁屋 嘉 納少尉 以下 二三名</p> <p>徳之島、宮古島、石垣島、二九名</p>							

0707

	至自	昭
	2020	20
	99	9
	1110	2
<p>各所在の地点に於て終戦。</p> <p>軍令陸甲第一一六号により在広島人員は復員。</p> <p>在南西諸島人員（古仁屋、徳之島、宮古島、石垣島）は現地指揮官の指示により帰還。</p> <p>在沖縄本島生存者は武装解除されたる後米軍収容所に入る。</p> <p>部隊長</p> <p>少佐 道野 四郎</p>		

0708

昭 19	19	昭 19	年 月 日	船 船 通 信 第 三 大 隊 (暁第一六七二〇部隊) 略 歴
19	19	19	略	
7	5	4	歴	
15	10	12	摘要	
<p>部隊長 少佐 河田 幹 雄</p>		<p>軍令陸甲第四二号に依り編成下令。 「ラバウル」に於て船舶通信連隊本部の一部第二中隊、第三中隊、第四中隊の主力海上輸送第四大隊の一部を以て編成完結。 第四船舶送司令官の隷下に入り従来の船舶通信連隊主力の任務を継承し「ラバウル」帰郷の通信連絡に従事す。 軍令陸甲第六七号に依り現地復帰し第八方面軍隷下独立混成第三九旅団通信隊に編入せらる。</p>		

0709

20	20	20	20	20	20	20	20	20
6	6	5	4	4	3	3		2
9	1	18	10	5	20	10		14
<p> 広島に於て教育訓練中の第三中隊、広島出發。 安東山海関經由二月二五日鎮江に到着し揚子江流域。 (南京、九竜、石炭窟、漢口並に蘇洲地区) 及北支沿岸地区に(蓮雲港、青島塘沽秦皇島)に展開す。 第二中隊主力追及のため中川軍曹以下一〇名上海出發。(平津丸) 第一中隊担任の汕頭、厦門通信所を第二中隊に担任せしめ勤務員は上海に帰還し上海通信所を援助す。 第一中隊「柳井准尉以下八四名」在台湾現配置の儘、船舶通信第二大隊に転属せしめらる。 第二中隊第二小隊「村上少尉以下三五名」海島展開の目的を以て海軍艦艇「海光丸」にて九竜出發。 福州通信所閉所 温州通信所閉所。 九竜第二中隊は中隊長以下三八名(厦門以南)に現配置の儘第二三軍に編入さ </p>								

0711

20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		
11	10	9	9	8	8	8	8	7	7		
1	15	18	11	30	27	23	15	30	28		
属。	青島、連雲港、通信所勤務員「佐伯少尉以下二九名」第六五碇泊場司令部に転属。	部転属。	漢口、石灰箱、九江、通信所勤務員「小林少尉以下三三名」第二船舶輸送司令部に転属。	本部第一中隊第三中隊材料廠具松に集結。	鎮江在駐の第三中隊主力鎮江出発。同日上海に集結。	第一中隊、各通信所上海に集結。	秦皇島塘沽通信所勤務員「立花軍曹以下一八名」は二船司北支支部に転属。	本部並に材料廠南京出発。同日上海に集結。	支那に於て停戦。	南京帰雲堂に着。	本部並に材料廠は南京移駐のため上海出発する。

0712

	21	21	21	21	20	20
	2	2	1	1	12	11
	7	4	13	10	25	25
<p>部隊長</p> <p>大尉 多田晴之</p>	<p>南京通信所勤務員「前川軍曹以下一〇名」第二船舶輸送司令部に転属。</p> <p>蘇州通信勤務員「中山曹長以下二六名」第六七碇泊場司令部に転属。</p> <p>上海通信所勤務員「宮原軍曹以下九名」第二船舶輸送司令部に転属。第一回帰還者「沖大尉以下九五名」佐世保上陸、復員。</p> <p>兵站勤務隊要員として「池田大尉以下一七名」第三軍司令部に転属。</p> <p>部隊主力上海港出発。</p> <p>佐世保上陸。復員。</p>					

0713

昭	年	船舶通信第五大隊 略歴
20	略	
20	略	
20	2	<p>軍令陸甲第一九号により編成下令。 特設船舶通信中隊を基幹として広島に於て編成完結。 大陸命第一一二号により船舶司令官の隷下に入らしめられ下関に位置す。 第一中隊は南鮮地区派遣のため宇品出發。 第一中隊釜山上陸。 通信所を、釜山、馬山、麗水、木浦、に設置し船舶輸送に伴う通信業務に従事す。 第二中隊は通信所を門司、博多、唐津、伊万里、三角、鶴知、比田勝、勝本、三池、崎戸、鹿兒島に設置し船舶輸送に伴う通信業務に従事す。 第三中隊は通信所を敦賀、香住、境港、粟野、江崎、小串、萩、仙崎、広島に設置し船舶輸送に伴う通信業務に従事す。</p>
20	2	
20	2	
20	20	
20	8	
		摘要

0714

	昭	20	20	20	20	20	20	20	20	20
		10	10	10	10	9	9	9	9	4
		29	25	15	13	30	28	28	2	5
<p>昭</p> <p>船舶通信第二大隊は「バカン」通信所を編入す。</p> <p>夫々展開の地点に於て終戦。</p> <p>調参電第八三二号及び朝参命持第一〇七号により第一中隊復員下令。</p> <p>第一中隊主力釜山出發、同日博多上陸。</p> <p>第一中隊主力復員。</p> <p>第一中隊一部（釜山通信所）釜山出發。</p> <p>第一中隊一部境上陸同日復員。</p> <p>本部、材料廠、第二中隊、第三中隊、復員下令。</p> <p>復員。</p> <p>部隊長</p> <p>少佐 皆川 政次</p>										

0715

至自		至自		至自		昭	
20	2020	2019	20	1919	19	19	19
10	108	8 6	4	6 3	5	3	3
22	2116	156	5	5 18	15	18	8
<p>同島出発。 通信所及び器材接收作業に従事す。</p> <p>び硫黄島司令部との通信連絡に従事す。</p> <p>同島守備隊独立混成第九連隊の通信を担当「トラック」島第三十一軍司令部及</p> <p>船舶通信第五大隊に編入さる。</p> <p>船舶局地輸送の通信業務に従事す。</p> <p>船舶通信第二大隊に編入さる。</p> <p>同日第二碇泊場司令官の指揮下に入る。</p> <p>「マリアナ」諸島「バガン」島着。</p> <p>横浜港出発。</p>							
<p>船舶通信第五大隊バガン通信所 (暁第一九七七五部隊)</p> <p>略 歴</p>							
<p>略 歴</p>							
<p>摘要</p>							

十中斷 福

0716

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

		昭 20
		10
		26
	所長 曹長 長谷部 栄	浦賀着同日復員。

3111

0717

						昭
						年
						月
						日
20	20	20		20	20	20
5	5	4		8	4	2
10	1	5		15	3	6
<p>軍令陸甲第一九号に依り編成下令。 広島に於て編成完結。 船舶司令官の隷下に入り主力は新潟に位置し一部(第二中隊)を羅津に派遣し 通信業務に従事す。 主力は新潟に於て停戦、一部は北鮮に於て終戦。 部長 少佐 都井 進</p> <p>(第二中隊の行動) 一ヶ小隊を羅津に派遣す。 主力新潟港出発。 主力羅津着。同日清津、元山、雄基、城津、興南、遮湖、羅津の各地区に展開</p>						
						略
						歴
						略
						歴
						摘要

0718

	20	20	20	20
	8	8	8	7
		15	2	27
<p>す。</p> <p>大隊本部より三四名第二中隊要員として派遣され同日中隊に編入せらる。</p> <p>羅津中隊本部は「ソ」軍の爆撃を受け鏡城に南下す途中清津小隊、雄基分隊を 収容し対「ソ」戦斗準備の為鏡城に於て陣地構築に従事す。</p> <p>北鮮に於て停戦。</p> <p>一九日、二一日夫々の地点に於て「ソ」軍に依り武装解除され、爾後咸興中学 校に収容されたる後入「ソ」す。</p> <p>中隊長 中尉 服部 治 介</p>				

					昭	年月日	船船通信第六大隊第二中隊 (暁第一九八三五部隊)	略	略	略	略				
					20							20	20	20	20
					9							5	5	4	3
					2	21	17	5	3	<p>軍令陸甲第三六号に依り船舶通信第六大隊臨時編成下令。 広島に於いて編成完結。 第二中隊は船通六大作命第一五号に依り新潟港出発。 維津港上陸。同日第一船舶輸送司令部北鮮支部長の指揮下に入り清津、元山、 雄基、城津、興南、羅津の各地に展開す。 羅津に於て終戦。</p>					
<p>中隊長 中尉 服部 治 介</p>											摘要				

0720

昭 17	至 自						年 月 日	船 舶 工 兵 第 一 連 隊 (暁第六一七〇部隊) 略 歴	
	18	18	18	18	18	17			略 歴
	9	8	8	7	5	3			
		下旬	中旬			31	<p>軍令陸甲第五二号に依り独立工兵第六連隊を改編し「ラバウル」に於て編成完結。</p> <p>「ガタルカナル」島上陸作戦参加。</p> <p>「ガタルカナル」島撤退。</p> <p>比島「セブ」島に転進して再編成後教育訓練実施。</p> <p>「セブ」島出発。「ラバウル」着。</p> <p>「ラバウル」出発。「ツルブ」着。同地附近、及び「ダンヒール」海峡方面の輸送に従事す。</p> <p>第一回挺隊は「ニューブリテン」島「ブツシング」より「ニューギニヤ」島「フイーンシユハーヘン」への輸送を、第二回乃至第五回挺隊は「ウンボイ」経由「ニューギニヤ」島「シオ」への輸送を実施す。本部第一、第二中隊及び</p>		
							摘 要		

0721

19	19	18	18	18
2	1	12	12	10
	上旬		上旬	
<p>材料廠は「ツルブ」に位置して同方面の輸送を実施したる後「ラバウル」に転進す。</p> <p>第三中隊は「ニューギニヤ」島「シオ」に上陸し「マダン」「シオ」間の輸送に従事す。</p> <p>第三中隊の主力は「シオ」に在りて連隊本部との通信杜絶したるを以て船舶工兵第五連隊長の指揮下に入り局地輸送並に潜水艇により輸送せられたる軍需品の揚陸作業に従事す。</p> <p>第三中隊の一部は「マダン」に在りて船舶工兵第九連隊長の指揮下に入り「ゴール」河及び「コム」河の渡河作業及び舟艇秘匿地偵察並びに陣地構築等に従事す。</p> <p>敵「フンガイヤ」に上陸せるため「シオ」に在りし第三中隊主力は「ガリ」「ミンテリ」「マダン」に転進す。</p> <p>第三中隊主力「マダン」着。爾後船舶工兵第五並びに第九連隊長の指揮を解かれ、第一船舶団長の直轄となる。</p>				

0722

至自		至自						昭		年月日	船舶工兵第二連隊 (暎第六一七一部隊)	略歴	
1918	18	17	17	17	17	〃	17	17					<p>軍令陸甲第五二号に依り独立工兵第一連隊を改編し昭南に於て編成完結。 昭南出発。</p> <p>「スマトラ」着。</p> <p>「スマトラ」出発。</p> <p>「ニューギニヤ」作戦準備のため「ラバウル」に転進。</p> <p>爾後「カ」島攻撃に策応し、「ホートモレスビー」作戦を準備す。</p> <p>佐渡丸以下一一隻による「ガダルカナル」島補給輸送に任ず。</p> <p>主力は「カダルカナル」島に於て揚搭作業、一部は「ブーゲンビル」島「エレベータ」に於て補給輸送に任ず。</p> <p>「ムンダ」作戦参加。</p> <p>「マワレカ」を基点として第六師団長の指揮に入り「タロキナ」作戦に参加す。</p>
4	11	10	2	11	11	10	10	〃	10				
				16	5					31			
										摘要			

0724

21	21	21	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19
3	3	2	9	9	8	5	5	5	8	7	7	5	5	4
10	9	27	22	2	15	6	5			15				
復員。	大竹港上陸。	「フアウロ」島出発。	「フアウロ」島濠州軍に収容せらる。	「ブーゲンビル」に於て終戦。	停戦。	編成完結。	沖集作命甲第五三一号に依り臨時編成改正。	船舶工兵第三連隊及び第二野戦船舶工作廠「タリナ」支部より一〇〇名編入。	第八方面軍司令官の隷下に入る。	第二船舶団司令部より三〇名編入。	第二揚陸隊より一〇〇名編入。	「エレベント」地区に於て防衛戦に従事。	「エレベント」に移動。	

0725

昭																		
年月日																		
18	17	17	17	17	✓ 17	17	17	17	17	8								
3	11	11	10	10	10	9	9	9		31								
28	14	10	14	12	6	20	12	11										
<p>軍令陸甲第五二号に依り独立工兵第二八連隊を編成改正。 船舶工兵第三連隊「スラバヤ」において編成完結。 南太平洋船舶作戦参加のため「スラバヤ」出発。 「バタビヤ」着。 「バタビヤ」出発。 「ラバウル」着。 「ラバウル」出発。 「カダルカナル」島「タサフカロング」に於ける揚陸作戦に従事す。 「タサフカロング」出発。 「ラバウル」着。 「ラバウル」出発。</p>										略	略	略	略	略	略	略	略	略
										摘要								

0727

	20	19	18	18	18	18
	9	7	9	8	8	4
	2	15		23	4	4
<p>部隊長</p> <p>中佐 松山 作二</p>	<p>「ラバウル」において終戦。</p> <p>第四連隊及び海上機動第一大隊となる。</p> <p>大陸命により第八方面軍司令官の隸下に入り地上部隊に改編せられ、独立混成</p> <p>「コロバンガラ」島撤退作戦に参加し、爾後「ブーゲンビル」島に位置す。</p> <p>「ラバウル」着。</p> <p>「セブ」島出発。</p> <p>「セブ」島着。部隊再建訓練。</p>					

0728

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	昭	年 月 日	船舶工兵第四連隊 (既第六一七二部隊)	
1515	1515	1414	1414	1414	1414	1414	1414	1313	13	13			略
6 6	3 2	1211	1110	8 3	6 6	2 1	1 1	109	9	7			
2519	1527	5 4	1214	1913	2411	1725	6 3	2626	17	31	歴		
<p>第二次宝安附近敵前上陸戦闘参加。</p> <p>第二次中山県並小樽附近攻略戦闘参加。</p> <p>欽県敵前上陸戦闘参加。</p> <p>中山県攻略戦参加。</p> <p>宝安附近敵前上陸戦闘参加</p> <p>仙頭敵前上陸戦闘参加</p> <p>海南島邁湾敵前上陸戦闘参加。</p> <p>西湾水道北方三角州掃蕩戦参加。</p> <p>広東攻略戦参加。</p> <p>宇品港出発。北支に出動。</p> <p>広島において独立工兵第一四連隊編成完結。</p>											略	歴	
											摘要		

0729

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
1717	1717	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1616	1515
2 1	1 1	1211	1211	1211	109	8 7	6 5	5 5	5 4	4 3	3 2	2 1	1110
1612	103	2830	1215	9 15	3 16	8 12	1028	243	1 1	1 16	1520	8 26	1710
<p>欽寧撤退作戦参加。</p> <p>香韻遮断作戦参加。</p> <p>雷州方面遮断作戦参加。</p> <p>汕尾附近遮断作戦参加。</p> <p>福州作戦参加。</p> <p>東江作戦参加。</p> <p>古井地区占拠作戦参加。</p> <p>南部仏印進駐作戦参加。</p> <p>四邑作戦参加。</p> <p>馬來半島シンゴラ附近上陸戦闘参加。</p> <p>「コタバル」附近敵前上陸戦闘参加。</p> <p>香港攻略戦闘参加。</p> <p>「クワンタン」推進輸送戦闘参加。</p> <p>「アンボン」作戦参加。</p>													

0730

至自	至自	至自	至自	至自	至自			至自		至自	至自	至自	至自
2020	2019	1919	1919	1918	1818	18	17	1717	17	1717	1717	1717	1717
8 1	2 11	109	5 1	127	5 1	1	8	8 8	8	5 4	3 3	2 2	2 2
141	281	3110	3130	3124	1010	15	31	245	1	2425	2612	2417	289
<p> 濠北地区「一」号作戦参加。 完作戦参加。 「ウ」号作戦参加。 「八」号作戦参加。 濠北地区防衛作戦参加。 循兵团第三一号作戦参加。 第一六軍の指揮下を脱し第一九軍の指揮下に入る。 編成改正完結。船舶工兵第四連隊と改称、同日第一六軍の指揮下に入る。 葡閩領「チモール」島国境地域 定作戦のため水路輸送に従事。 軍令陸甲第五二号により独立工兵第一四連隊編成^(制)改正下令。 北部「ビルマ」作戦参加。 「アンダマン」群島敵前上陸、戦闘参加。 「チモール」島上陸作戦参加。 南部「スマトラ」作戦参加。 </p>													

0731

	20																
	9																
	2																
<p style="text-align: right;">西部ニューギニア「カイマナ」に於て終戦。</p> <p style="text-align: center;">歴代部隊長</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>初代</td> <td>中佐</td> <td>佐々木</td> <td>軍次郎</td> </tr> <tr> <td>二代</td> <td>大佐</td> <td>森</td> <td>明義</td> </tr> <tr> <td>三代</td> <td>大佐</td> <td>渡辺</td> <td>三郎</td> </tr> <tr> <td>四代</td> <td>中佐</td> <td>石田</td> <td>愛之助</td> </tr> </table>	初代	中佐	佐々木	軍次郎	二代	大佐	森	明義	三代	大佐	渡辺	三郎	四代	中佐	石田	愛之助	
初代	中佐	佐々木	軍次郎														
二代	大佐	森	明義														
三代	大佐	渡辺	三郎														
四代	中佐	石田	愛之助														

0732